# Y21a 紀美野町みさと天文台におけるアイソン彗星に関する活動報告

矢動丸泰, 小澤友彦, 山内千里 (紀美野町みさと天文台), 佐藤奈穂子 (みさと天文台/和歌山大)

アイソン彗星 (C/2012 S1) は 2013 年の大きな天文現象の一つであった。近日点通過前後には肉眼彗星となる可能性が示唆され、日本天文協議会や国立天文台がキャンペーンを張り、公開天文台などでは一般に向けての広報普及活動が行われた。

みさと天文台では９月からアイソン彗星の定期的な観測を実施した。観測結果はホームページへ即日アップして、刻々と変わる状況を素早く伝えることを目指した。マスコミに対しても積極的に情報提供を行った結果、数多くの紙面に写真付きで掲載の機会を得た。

近日点通過前には紀美野町文化祭へ出展（11 月２日から４日）し、アイソン彗星についてや観察方法などを紹介する機会を設けた。市町村の文化祭への参加者は、多くの場合、地区在住の方（あるいは関係者）であるが、天文台ブースにはアイソン彗星の情報を得るため町外からの来訪者もおり、アイソン彗星の関心の高さを感じた。

一般の方を対象にした早朝の特別観望会は２回実施した。11 月 10 日（日）未明には悪天候にもかかわらず 11 名の参加者があった。参加者全員の「また機会があれば参加したい」との声を受け、アウトバーストの情報が流れた直後 11 月 16 日（土）未明に、２度目の観望会を実施した。天候に恵まれ、増光直後ということもあり 105cm 反射望遠鏡を覗くと尾がはっきり見える好条件であった。イベント時間は 30 分と短いものであったが、参加者（10 名）には、大型望遠鏡だけでなく双眼鏡でも探してもらう体験をしていただいた。

本講演では、みさと天文台が行ったアイソン彗星に関する活動内容を報告するとともに、お客さんやマスコミ等の反応なども紹介し、今後の広報普及活動への取り組み方などについて議論する。